

伝統工芸ワークショップを実施しました

9月10日(日)、10月22日(日)の2日間、静岡市の伝統工芸をテーマとして、静岡市文化財サポーター9名、伝統工芸関係者4名にお集まりいただき、ワークショップを実施しました。伝統工芸の体験施設である駿府の工房 匠宿で、お茶染めを体験し、また、職人の方々のお話を聞くことで、伝統工芸への理解を深めるとともに、市民で伝統工芸を将来へ継承するための方法等について意見交換を行いました。ワークショップは、参加者等からの意見を、現在作成を進めている静岡市文化財保存活用地域計画へと反映することを目的とします。

静岡市の伝統工芸は、江戸時代、久能山東照宮や静岡浅間神社の造営に際し、全国の秀でた職人たちを静岡に集めたことに始まります。駿府に移住した職人たちの様々な技術は、長年に渡り受け継がれ、また時代とともに更なる発展を遂げ、今日に至ります。

伝統工芸ワークショップの実施概要

【第1回】 匠宿で職人の指導のもとお茶染めの体験を行い、静岡市の伝統工芸を学び、匠宿の取組や職人の話を聞くことで、伝統工芸への理解を深めました。

- 日 時 令和5年9月10日(日)
- 会 場 駿府の工房 匠宿(駿河区丸子)
- 内 容 [体験] お茶染め
[意見交換] 体験の感想、伝統工芸を市民に身近に感じてもらうには?
- 参加者 11名(サポーター9人、職人等2人)

- ・体験出来て良かった。こういう機会を増やしてほしい。
- ・職人さんの話を聞いて認識が変わった。
- ・伝統工芸がたくさんあることを知った。
- ・もっと市民にアピールしたほうが良い。
- ・子どもの社会学習や校外学習の時間で伝統工芸に接する機会を増やすのが良い。



【第2回】 参加者それぞれ身近にあった伝統工芸を発表し、これまでの関わりを改めて確認した後、職人や関係者と一緒に具体的なアイデアについて意見交換を行いました。

- 日 時 令和5年10月22日(日)
- 会 場 静岡市役所
- 内 容 伝統工芸を知る(身近にある伝統工芸、職人への質問など)
伝統工芸をまちづくり等で活かす方法
- 参加者 13名(サポーター9人、職人等4人)

- ・家の中に伝統工芸品があり、使っている。修理をしたい。
- ・職人さんの話を聞いて伝統工芸のことがわかった。
- ・匠宿でいろいろなことに取組んでいることを知った。
- ・自分の仕事を振り返り、考える良い機会になった(職人)。

主な意見など

現状・課題

- ・静岡市の伝統工芸はいろいろありすぎて、どれを推すか？PRもしづらい。
- ・伝統工芸には、日常づかいではないものも多い。敷居が高いという意識がある。
- ・伝統行事もすたれてきている。価値観も変わっている。新しい価値を見つける必要がある。
- ・職人の苦勞、手間が一般の人にはわからない。理解しづらい。見えない部分の苦勞もある。
- ・職人の中には、自分の代で終わっても良いという意識がある人もいる。自分の作品を作りたい。
- ・職人は個人でやっているため、PRまではできない。また、市場拡大などは難しい。
- ・イベントなどをやっているが、市民に良く知られていない。
- ・小学校で匠宿に来て体験をするが、その後が続いていない。
- ・PRにお金がかかりすぎる。効果が少ない。

伝統工芸を継承するためのアイデア

○匠宿への期待

- ・匠宿を伝統工芸の拠点、本拠地とする。職人の育成や展示も充実していく。
- ・痛んでしまったものの補修など、使い続けるための環境を整備して欲しい。

○PR・情報発信の充実

- ・PRの場（静岡駅・駿府楽市、浅間神社などの伝統的な場所、既存のイベント、など）
- ・行政がサポートする。
- ・ものを売るだけでなく、技術を紹介する場、機会をつくる
- ・販売戦略を明確にする。ターゲットを絞る。

○職人の育成

- ・職人を応援する。若い人にチャンスを与える。就職希望者等を受け入れる。生活を含め支援、環境整備。
- ・ふるさと納税の活用など。予算を確保し、若い人をつなぐ。

○体験する機会づくり

- ・伝統工芸を知る機会、使う機会を増やす。
- ・講座の実施、親子で参加できる体験教室

○教育

- ・子どもの頃から文化財に触れる機会をつくる
- ・学校教育との連携。地域を巻き込む。

○協働で取組む

- ・行政、職人、市民が一緒になって取組む。特に若い世代が交流し、施設見学や意見交換等を行う。

市民ができること

- 日常生活で伝統工芸を使う、使い続ける。
- 伝統工芸を知る。関心を持つ。職人さんと交流の機会を設ける。
- 自分が使っている伝統工芸品を紹介する。（親子二代で井川メンパを使っている。）
- 日常的に使える伝統工芸について、市民からアイデアを出す。

伝統工芸をまちづくりに活かす

- 伝統工芸の染織等でのれんを作って、商店街でいかす。
- 統一デザインのシールをはるなどして、伝統工芸を使っているお店やスポットがわかるようにする。
- マップづくり。伝統工芸めぐりを行う。
- デザインコンペの実施。学生なども参加し、職人が審査する。